

休退学防止のための自己開発グループ研修と ピアサポート体制の構築

Development of self-development group training and peer support system to
prevent leave school

共同研究メンバー

趙佑鎮*(学生委員会委員長)、○大森拓哉*(学生委員会副委員長)、中沢弥*(学生委員会副委員長)、飯田健雄*、大森映子*、椎木哲太郎*、黒瀬洋**、寺山浩子**、大野ひろみ**
(○代表、執筆者)

1. 本研究の目的

本学において休退学問題(離学問題)は喫緊の重大課題である。2016年度よりSA(学生アシスタント)によるピアサポート制度を開始したが、SAによる授業出席管理だけでは対策は不十分である。本稿においては、ピアサポート制度による休退学防止対策をより効果的なものにするべく、以下の2つのプログラムを実施したことを報告する。

第一は、SAのグループ研修である。先輩であるSAは新生にとって頼りになる存在であるものの、下級生に対する特別な教育指導論を学んできたわけではない。そこで基礎的な対応方法や問題となる事例研修と対応方法習得のためのグループ研修を毎月1回行った。

第二は、不適応学生に対する集合研修である。学業不振、意欲喪失、将来展望の不明な者など、大学生活に不適応であり、退学予備軍とも思われる学生に対し、外部講師を招いて集合研修を行い、生きること・大学で学ぶことの意義を考えることを目的とした。

本報告では、これら二つの取り組みと本学経営情報学部学生相談室の活動概要とについて解説する。

2. 多摩大学経営情報学部における2016年度学生相談室の活動概要

本学における学生相談は、授業や窓口などでの日常的な学生対応の中で行われる相談や、キャリア支援における個別相談、学生相談室における心理・学生生活相談等があり、それぞれが有機的な結びつきにより大学全体として学生個人を支援する体制が整えられている。

以下に経営情報学部学生相談室の最近数年間の利用状況と相談内容の内訳を示す。カウンセラー2名(男性・女性各1名)が配置され、週に3.5日開室されている。

相談件数は、在籍学生の2.5%程度で、全国の大学の3~5%程度からするとまだ利用率は高くなく、潜在的なニーズは存在すると思われる。また、2015年度(平成27年度)は新任カウ

* 多摩大学経営情報学部

** 多摩大学経営情報学部 学生課

セラーの着任、2016年度（平成28年度）は開室日が増加されたことなどから、相談回数が大幅に増えてきている。これは、より丁寧な相談対応ができる体制が整いつつあることから、一人の来談者に対して複数回じっくりと対応することができていることの現れである。受け入れ態勢を整えれば整える分だけ相談件数・回数が増加することは他大学の事例からも明らかであり、本学においても更なる学生相談体制の充実が望まれる。従来対応できずに離学していた学生に対しても少しずつ支援ができるようになってきているが、今後更なる体制を整える必要がある。

相談室における相談の内容は多岐にわたるが、図1に示すように、2016年度の半数は進路就学問題であった。心身健康問題（精神的な問題を含む）、対人関係、学生生活上の問題もみられるが、不適応や進路の見直しなどの問題も顕著となってきている。学生相談室では保護者や教職員からの相談も受けており、必要に応じてコンサルテーションも行っている。

表1 相談件数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	4	9	5	4	2	0	2	5	1	1	1	1	35
平成26年度	7	3	5	3	1	0	2	2	4	0	2	1	30
平成27年度	6	1	8	3	0	1	5	2	3	1	0	4	34
平成28年度	6	7	3	6	1	0	5	4	1	1	0	2	36

表2. 相談回数（回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	4	12	8	18	9	1	3	15	8	1	6	1	86
平成26年度	11	9	12	10	3	0	8	10	10	5	7	9	94
平成27年度	6	12	20	23	8	3	21	20	18	20	4	17	172
平成28年度	12	23	26	29	21	13	34	30	29	22	15	22	276

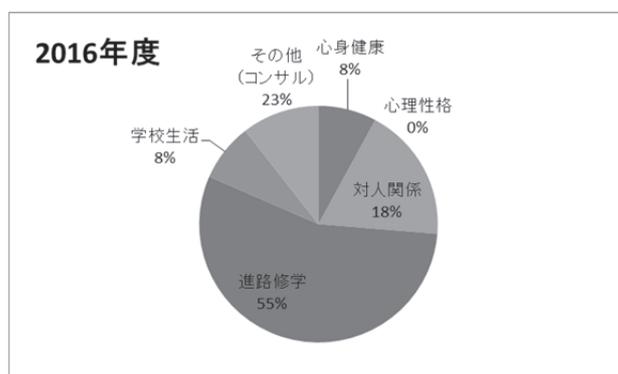


図1 相談内容分類

3. SAによるピアサポートのためのSA研修

ピアサポートを円滑かつ効率的に行うため、SAの研修指導を行った。毎週の授業であるプレゼミナールⅠ、Ⅱに同席した際に挙がってきた問題点のディスカッション、問題のある事例などにどう対応するか等についての学生相談室カウンセラー高瀬氏による講演指導等を行った。また、学生の立場からの意見聴取を行い、全体のプレゼミ運営の改善に取り入れた。以下に各回の概要を示す。

<定例ミーティング>

- ・ 2016年4月28日（木）12:15～12:55

- 内容：4月の振り返り、5月の予定確認、各クラスの運営方法について情報共有（名札、合同クラスなど）、学生の対応方法について（高瀬カウンセラーよりアドバイス）
- ・ 2016年6月2日（木）12:15～12:55
内容：5月の振り返り、6月の予定確認、欠席率の少ないクラスの事例共有、運営方法への提案
 - ・ 2016年6月30日（木）12:15～12:55
内容：6月の振り返り、7月の予定確認、運営方法への提案コメント確認、秋学期運営について説明
 - ・ 2016年9月22日（木）12:15～12:55
内容：春学期プレゼミ I の振り返り、秋学期プレゼミ II の運営について、1年生履修登録について、多摩祭企画について
 - ・ 2016年12月1日（木）12:15～12:55
内容：学科選択について、AL祭の出席について、多摩祭について振り返り



写真1 プレゼミ SA 定例ミーティング

4. 不適応学生に対する集合研修

自分自身の見つめなおし、自己研鑽、自己発見等々を目的とし、行徳哲男氏を講師として招き、半日の集合研修を行った。

日時 平成29年1月24（火） 14時～19時
場所 四ッ谷駅近くのセミナー室
参加者 学生7名、教員2名、スタッフ数名

参加者は、講義時間内での告知、教職員からの呼びかけ等で集められた。内容は、①瞑想の時間、②自分自身の振り返り、③感情表出、④各界著名人の人生紹介等々多岐にわたり、一部を除き参加者全員がこのようなセミナーは初体験であった。セミナーの前後で参加者の表情は明らかに違い、各々が衝撃的な経験をしたことが窺える。セミナー後半では、雰囲気をはらりと変えての懇談が行われ、一転して和やかに質疑応答が行われた。また、講師から参加者全員へ自筆の書の贈呈が行われた。セミナー後、場所を変えて講師・社会人・他大学学生を交えての懇親会を行った。

参加者は、“志ゼミ”をはじめ、その他の授業等で出席の思わしくない者などに積極的に声をかけて集められた。開催規模の関係で少人数でのセミナーとなり、通常2泊3日で行われる内容の一部を凝縮して半日で行ったが、参加者にとっては大変衝撃的で内容の濃い体験であったと思われる。以下に参加者へのアンケートから、参加しての感想を記す（抜粋）。他大学学生も同席でのセミナーだったので、緊張感もさらに倍増していたものと思われる。

[参加者の感想]

- 最初に案内された場所が雑居ビルの一室で中からスーツ姿の男性と女性が出てきて少し驚いたが、何よりセミナー開始早々何も聞かされず瞑想が15分近く行われたことにとても驚いた。行徳先生の発した言葉はお年の割にはっきりと大きな声量だったのが印象的だった。最初の方は行徳先生の言葉が何も心に響かなかった。しかし、次第に話が自分に向かって来る感じがして話に夢中になっていった。終始緊張感のあるセミナーだった。会食では行徳先生とお話することができなかったが松本社長から色々なお話を聞いて勉強になった。今回参加できて良かったと思う。行徳先生のお話を聞くといつも心の内が熱くなる。感性に訴えるとはこういうことなんだろうと感じた。自分もいつか他人の感性に訴えられるような人間になろうと思った。
- 講演会や普段の行徳先生と違い、セミナー時は顔が変わって、いきなり瞑想から始まった時は、不安が大きかったです。その後、お袋の話になり、正直にお袋はいないと伝えたところ、行徳先生が目頭を熱くさせてハンカチで目を押さえていて、自分も泣きそうになりました。久々に他人から説教を受け、いい刺激になり、やさしさが強さであり、自分はわざと強がり、あまり弱さを周りに見せていなかったが、感受性を豊かにしようと行徳先生から教わりました。
- 趙先生の感性と人工知能を絡めた話がとても興味深かった。私は人工知能について興味があり、本を読んで少し人工知能に関する知識もあったので趙先生の人工知能と我々人間は感性で差をつけるしかないという話にとても共感した。また、これは人間相手でも重要だと私は気づいた。採用面接等では最後は能力ではなく人柄を見られると趙先生に言われたことがあるがその意味を深く実感できた。就職活動を控えたこのタイミングでこのことに気づくことができ、とても良い経験だったと思う。
- 最初はどうなるのかと不安でいっぱいでしたが、行徳先生の全力の姿勢、眼力に圧倒されて私も同じ姿勢で話を聞き受けてみると、行徳先生の熱意や志が伝わってきて、終わったころには自然と行徳先生の偉大さに改めて驚かされました。セミナーの後の食事のときはまた違う雰囲気でもとても楽しみながら食事をするのができ、行徳先生ともしっかりとお話をしたいと心から感じていました。今回のセミナーに参加できて本当によかったと思っています。
- やっぱり怖かったです。始まって早々に瞑想させられたかと思えば集中力が足りないと怒られるし、2回目なのに何言ってるかわからないし。しかし、行徳先生は色々な話をしてくださり自分を見直させてくれました。普段は自分の事を聞かれてもあまり言わないのですが、なぜか行徳先生に聞かれると「ごまかしは効かない。ちゃんと言わなければならない」と思い自分の事を口に出すにつれておもりが外れたような気がしました。このセミナーを受けてから気分が軽くなったような気がします。セミナーを受けて良かったなと思いました。

5. まとめ

本報告における取り組みは、開始してまだ間もないものであり、その効果についてはまだ十分に明らかになっていない。しかしこれらの新しい試みの有用性は大いに期待することができ、離学防止のためだけでなく、全学生の生活の質の向上に向けて今後の展開により一層力を入れていくことが重要であると考えられる。